

研究報告

報告 A インシデント事例に基づく、業務プロセスによる分類を利用した過誤の類型化とその利用方法

背景

本研究の対象となる「ヒヤリハット事例??？」で収集された情報にも、医薬品にかかわる過誤の事例は多く提供されている。この提供された事例を医療の安全に活用するためには、その過誤の発生場面・種類（ハザード）を類型化し、頻度・激しさ（リスク）と対策を提示して行く必要があると考えられる。しかし、医薬品にかかわる過誤は、その数が多いのみだけではなく、その発生場面・種類（ハザード）は多様であるために類型化が充分されてこなかった。この結果、頻度・激しさ（リスク）や対策を提示して行くことも困難であった。

目的

本研究では、「ヒヤリハット事例??？」で収集された情報（「収集インシデント情報」と呼ぶ）を利用して、

医薬品にかかわる過誤の発生場面・種類（ハザード）を類型化した上で、各ハザードについて頻度・激しさ（リスク）と対策を何らかの方法により提示することにより、

「ハザードの存在」、「リスクの程度」と「典型的対策」を医療従事者が学習する素材を作成する方法を検討した。

方法

もとより、収集インシデント情報は、報告者のリスク認知に依存している。この結果、死亡あるいは永続的な身体機能の喪失などという重大な事故を引き起こすリスクの高いハザードが、高頻度で報告されているとは限らない。また、収集インシデント情報は、身体に影響をのこした事故事例ではない、身体に影響をのこしていない事例であるため、個々の事例の結果は、ハザードのリスクとは直接関係がない。

これらの性質を勘案し、本研究では以下のように「医薬品にかかわる過誤の発生場面・種類を類型化（ハザード同定）」「ハザード毎の頻度・激しさ（リスク推定）」と「ハザード毎の典型的対策（プラン提案）」を行うことの可能性を検討した。

業務プロセスの同定とプロセスの各段階毎の分析分担

ハザード同定以下の検討作業に当る現任の医療従事者の知識と経験が最大限に生かされるよう、医薬品使用にかかわる診療行為を、その業務の時間的流れ（業務プロセス）を推定し、その業務プロセスに沿って過程を分解し、分解された各業務の段階毎に、その業務の段階にかかわる職種の医療従事者が検

討作業に当るようにした。この各業務の段階について検討作業を行う者を分析担当者と以下記す。

ハザード同定

ハザードの同定は、「収集インシデント情報」で報告された事例に含まれるハザードを分析担当者が専門的知識と経験に基づいて、類型化した。このハザードの理解を助けるために、「収集インシデント情報」で提供された事例情報あるいはその内容参考として設例として作成した事例情報を示すこととした。

リスク推定

リスク（ハザードによりもたらされる望ましくない結果の激しさと頻度）は、「収集インシデント情報」で報告された事例で同定されたハザードについて、そのハザードが潜在的に有する「結果の激しさ」と「頻度」およびその組み合わせとしての「リスク」について、それぞれ「大」「中」「小」あるいは補助的にこれらに加えて「最大」「最小」などという表現により、定性的に表示することにした。判断は、分析担当者が専門的知識と経験に基づいて行うこととした。

なお、「結果の激しさ」「頻度」「リスク」の大きさは、報告された事例のもたらされた結果にかかわらず、そのハザードが潜在的に有する大きさを表示することとした。

プラン提案

同定されたハザード毎に、その発生の原因と結果発生までの典型的経過を分析担当者が、専門的知識と経験に基づいて、対策のプラン考案し提示することとした。

結果

本研究により、別記（教育資料 B）の通り、「医薬品にかかわる過誤の発生場面・種類を類型化（ハザード同定）」「ハザード毎の頻度・激しさ（リスク推定）」と「ハザード毎の典型的対策（プラン提案）」が同定され、推定され、提案された。

ハザードの同定にあたり、発生した事象に着目し分類するのが適切か、あるいは事象が発生した原因により分類するのが適切かが討議された。討議の結果、業務のプロセスの各段階ごとに理解しやすい考え方が異なる可能性があると考えられ、本研究の学習する素材を作成するという研究課題の設定を考慮した場合、各段階ごとに検討担当者が適切と考える方法を採用し分類することを試みることとなり、このような分類をおこなった。

考察

本研究では、「ヒヤリハット事例??？」で収集された情報（「収集インシデント情報」と呼ぶ）を利用して、医薬品にかかわる過誤の発生場面・種類（ハザード）を類型化した上で、各ハザードについて頻度・激しさ（リスク）と対策を何らかの方法により提示することができた。この情報は、「ハザードの

存在」、「リスクの程度」と「典型的対策」を医療従事者が学習する機会となることから、本研究の目的である、『ハザードの存在』、『リスクの程度』と『典型的対策』を医療従事者が学習する素材を作成する方法」として利用可能であることが示された。

今回、使用した方法は、専門家である検討担当者の知識と経験に依存しており、それが疫学的厳密さを有する高い精度のリスク評価方法であるとはいえない。しかし、いままで医療安全のために医療従事者の教育に「収集インシデント事例」の利活用が困難であったことを勘案すると、たとえリスク評価方法の精度が高くなくとも、医療安全のための医療従事者の教育に利用されることにより、教育効果を期待することは適切であると考ええる。今後、今回作成したハザード情報の内容を、より多くの専門家関与や情報の利用者のフィードを通じて、さらに精度の高い良質のものとしていく努力を継続することで、「収集インシデント事例」を医療安全の実現のためによりよく利用して行くことが可能となると期待される。

また、本研究ではハザードの中でリスクの高いハザードを同定したが、このようなハザードに対してはより重点的に教育を行うことが教育的に有益であると期待される。

ハザード同定について、ハザードの事象に着目した分類が適切か、あるいはハザードの原因に着目した分類が適切かは、本研究成果物を素材とした教材の作成とその評価により、再度検討されるべき課題として残されている。

報告 B インシデント事例によるリスクの高い過誤の発見とこれらに関する教育的情報の作成

背景

「インシデント事例に基づく、業務プロセスによる分類を利用した過誤の類型化とその利用方法」の検討を行う中で、「収集インシデント事例」を利用して「ハザードの存在」、「リスクの程度」と「典型的対策」を医療従事者が効果的に学習するために、リスクの高い過誤については、特に明示して詳細な教育的情報を作成することが有益であると考えられた。

方法

「インシデント事例に基づく、業務プロセスによる分類を利用した過誤の類型化とその利用方法」で検討されたハザードのうち、現任の医療従事者である検討担当者が合議して、リスクの高い過誤を発見することとした。

このリスクについて、医療安全を推進するために有益と考えられる各種エビデンス（前向き症例対照研究、事例分析、パネル・エキスパートオピニオンなどを含む）を収集し、これらを用いて教育的情報を作成することを試みた。

結果

検討担当者の合議により、医療の安全を実現するために以下の項目が特に重点的に教育を要するハザードであると同定された。このハザード同定に基づき、それぞれのハザードにつき、教育的資料（教育資料 A）を作成した。

ハイアラートドラッグの概念と取り扱いについて
名称類似医薬品・外観類似医薬品への対応
入院時の患者持参薬への対応
処方箋・指示の記載方法の統一
輸血療法の実施に関する指針

この結果、「インシデント事例に基づく、業務プロセスによる分類を利用した過誤の類型化とその利用方法」で検討されたハザードの中から、特に重点的に教育を要するハザードが何であるかを合議して結論を得ることは、multidisciplinary な医療従事者が共同で合議することによって可能であることが示された。

考察

医療従事者は職種により関与する業務がことなることから、ハザードに対するリスク評価が異なると予想される。このような多職種の医療従事者が共同して診療業務を行っている医療で、医療の安全を実現するために重要なハザードが何であるかを合意できるか否かは、必ずしも自明ではない。

本研究では、多職種に渡る医療従事者が医療の安全を実現するために重要なハザードが何であるを検討し、医療の安全を実現するために特に重点的に教育を要するハザードを合意することが可能であることが示された。このことにより、多職種により診療プロセスを共同して検討して、多職種に共通する医療安全のための教育プログラムを作成することが可能であることを示すものである。

また、それぞれのハザードについて、教育的資料を実際に作成した。これらを利活用して、教育を実際に行い、その効果を測定し、改良して行くことの有効性や効率は今後の検討課題である。

(教育資料 A)

医薬品にかかわる過誤

(目的)

この資料は、

医薬品にかかわる医療の安全上重要なトピックについて学ぶ

医薬品にかかわる医療安全上の問題の所在と大きさ、典型的対策を学ぶ
ことを目的として作りました。

(構成)

この資料は以下の項目から成り立っています。

背景と考え方

重要事項に関する検討

ハイアラートドラッグの概念と取り扱いについて

名称類似医薬品・外観類似医薬品への対応

入院時の患者持参薬への対応

処方箋・指示の記載方法の統一

輸血療法の実施に関する指針

医薬品にかかわる問題の所在と大きさ、典型的対策のリスト

背景と考え方

医療の安全のなかで、医薬品にかかわる過誤を防止することは重要です。医療の安全に関するセンチネルイベント（警鐘的事例）を収集分析してきた JCAHO の統計報告によれば、医薬品にかかわる過誤が原因であるセンチネルイベントは、10.1%を占めており、患者の自殺、術側の誤り、手術中あるいは術後の合併症に続く位置を占めている。このことは、防止可能な医療にかかわる危険の中で、医薬品にかかわる過誤が重要な意味を持つことを示しています。（JCAHO Sentinel Event Statistics As of December 31, 2005）

（根本的原因）

医療の安全に関するセンチネルイベント（警鐘的事例）を収集分析してきた JCAHO によると、医薬品使用にかかわるセンチネルイベントの根本的原因としては、意思疎通の問題、オリエンテーション・訓練が同程度に高い頻度で見られます。（JCAHO Root causes of Medication Errors 1995-2004）

また、JCAHO が Sentinel Event Alert として医療の安全に関する情報を提供している中で、医薬品にかかわるものは以下の物があります。

(<http://www.jointcommission.org/SentinelEvents/SentinelEventAlert/>より)。

Issue 11 - November 19, 1999

High-Alert Medications and Patient Safety

要注意薬と医療の安全（11号 1999年11月19日）

Issue 16 - February 27, 2001

Mix-up Leads to a Medication Error

混同が招く医薬品の誤り（16号 2001年2月27日）

Issue 19 May 1, 2001

Look-alike, sound-alike drug names

外観の似た、あるいは名称の似た薬品名（19号 2001年5月1日）

Issue 23 - September 1, 2001

Medication errors related to potentially dangerous abbreviations

潜在的な危険をはらむ略語による医薬品の誤り（23号 2001年9月1日）

Issue 33 - December 20, 2004

Patient controlled analgesia by proxy

本人以外によるPCA(患者調節鎮痛法)（33号 2004年12月20日）

Issue 34 - July 14, 2005

Preventing vincristine administration errors

ビクリスチンを静脈内ではなくも膜下腔に注射する誤りを防止する。(34号 2005年7月14日)

Issue 35 - January 25, 2006

Using medication reconciliation to prevent errors

入退院時、患者の所在(場所)、診療科等が変わった際などに、使用されている医薬品と指示・処方が一致することを確認するプロセス(medication reconciliation)により誤りを防止する。(35号 2006年1月25日)

これらの情報は、米国でのセンチネルイベントに基づいて作成されたものであり大変参考になりますが、ここに記されているものには当然日本固有の医療制度・文化に基づくものは含まれていませんので、私たちが考えて行かなければなりません。

(何をなすべきか)

したがって、医療の安全を実現するために、各医療機関は

(1) JCAHO から根本的原因として頻度高く示されている事項(例えば有効なコミュニケーション(意思伝達)の実現、適切な教育と訓練の実現)について、職員が実現できるように職員教育を充実させること

(2) Sentinel Event Alert に示された情報を十分に理解して対応すること

(3) わが国に固有の医療文化から生じる問題について理解し対応することが強く望まれます。

(学習する資料)

そこで、この資料では、次章以下で

(1) 重要事項に関する検討

JCAHO Sentinel Event Alert などの情報に基づいて、専門家が医療安全上特に重要と考えた事項についての解説

(2) 医薬品にかかわる問題の所在と大きさ、典型的対策のリスト

わが国のインシデント事例に基づいて、医療安全に関する問題の存在とその大きさ、対策について、一覧して学ぶための資料

を準備しています。これらの資料を読むことにより、あるいは検索することにより、医薬品に関する安全上の問題を理解し、対策をとることが出来るようになります。

ハイアラートドラッグの概念と取り扱い

ハイアラートドラッグの意味

一口に医薬品といっても、薬効や製剤毎の特性は多様です。したがって、医薬品の中でも、医療の安全上、リスクの大きいものとリスクの小さい物があります。

リスクの大きいものうち、**誤った使用により重大な結果を引き起こす可能性の高い、取り扱いに注意を要する医薬品**を「ハイアラートドラッグ」（要注意薬）と呼びます。

ハイアラートドラッグを明確化することの意味

医薬品が多数あり、医療にかかわる医療従事者もそれぞれの専門性に基づいて、その医薬品の医療安全上の重要性を判断します。したがって、医療従事者ごとに、何がハイアラートドラッグであるかについての認識は異なるでしょう。

しかし、医療は多くの医療従事者が協力して提供するものですから、個々の医療従事者毎にハイアラートドラッグが何であるかの認識が異なっていると、どの医薬品に注意するかがばらばらとなり、安全対策が不十分な医薬品が発生することとなります。

医療機関ごとに、その医療機関での「ハイアラートドラッグ」が何であるかを明確にすることは、安全対策が必要な医薬品について、もれなく安全対策をするために必要なのです。

ハイアラートドラッグのリスト

ハイアラートドラッグは各医療機関できめなければなりません。なぜなら、医療機関ごとに、備えてある医薬品は異なり、また主として診療する患者さんの年齢や性別、疾患が異なります。このため、すべての医療機関に共通のハイアラートドラッグの一覧表を作成することは困難です。

ここでは、概ねどの医療機関でもハイアラートドラッグとして扱う必要があると思われる医薬品の一覧を示します。

- 1 米国 ISMP 作成のハイアラートドラッグリスト
および、これら医薬品の日本での代表的商品名
- 2 日本病院薬剤師会リスクマネジメント対策特別委員会作成のリスト

日本病院薬剤師会（会長 全田浩）のリスクマネジメント対策特別委員会（委員長 土屋文人）から会員各位宛にだされている通知を資料とし、薬剤師が調剤、薬品管理を行ううえで注意すべき薬剤として例示されているものを以下にまとめる。

資料とした通知

平成 12 年 11 月 15 日付け

外来患者の医薬品関連医療事故のための緊急対策について（通知 1）

平成 15 年 10 月 27 日付け

医薬品関連医療事故防止への病院薬剤師の緊急自己点検について（通知 2）

平成 15 年 11 月 12 日付け

処方点検や調剤時、病棟への供給時に注意を要する医薬品について（通知 3）

平成 16 年 5 月 10 日付け

医薬品管理と患者安全に資する調剤方法の更なる徹底について（通知 4）

注意すべき薬剤として記載されている薬剤

薬歴に従った調剤が必要とされている内服薬（通知 1）（通知 2）（通知 4）

抗悪性腫瘍剤

糖尿病用薬

ジギタリス製剤

ワーファリン

（該当する主な製品の一覧は別表参照）

用量にチェックに関し、より厳格に疑義照会を行う必要のある注射薬（通知 2）

タキソールとタキソテール

病棟・外来からは撤去すべき薬剤（通知 2）（通知 4）

10%キシロカイン製剤

誤処方による事故、ヒヤリハット報告があった医薬品名の組み合わせ（通知 3）

- ・ アマリール、アルマール
- ・ サクシン、サクシゾン
- ・ タキソール、タキソテール
- ・ ノルバスク、ノルバデックス
- ・ オーダリングシステム等を採用している医療機関において先頭 3 文字が同一の医薬品

名称類似によると思われる調剤エラーや誤投薬のヒヤリハット報告が複数あったもの（通知3）

- ・ アロテック、アレロック
- ・ ウテメリン、メテナリン
- ・ テオドール、テグレトール
- ・ プレドニン、プルゼニド

投与量のチェックを厳しく行うべきもの（通知3）

- ・ タキソール
- ・ タキソテール
- ・ インスリン製剤
- ・ 小児におけるアミノフィリン

投与方法についての注意喚起（他の医薬品との供給方法の差別化）を行うべきもの（通知3）

- ・ カリウム製剤
- ・ リドカイン製剤（特にキシロカイン10%）

注：該当する主な製品の一覧（別表）は通知にはありません。今回作成しました。

日本病院薬剤師会（会長 全田浩）のリスクマネジメント対策特別委員会（委員長 土屋文人）から
会員各位宛にだされている通知を資料とし、薬剤師が調剤、薬品管理を行ううえで注意すべき薬剤とし
て例示されているものを以下にまとめる。

資料とした通知

平成 12 年 11 月 15 日付け

外来患者の医薬品関連医療事故のための緊急対策について（通知 1）

平成 15 年 10 月 27 日付け

医薬品関連医療事故防止への病院薬剤師の緊急自己点検について（通知 2）

平成 15 年 11 月 12 日付け

処方点検や調剤時、病棟への供給時に注意を要する医薬品について（通知 3）

平成 16 年 5 月 10 日付け

医薬品管理と患者安全に資する調剤方法の更なる徹底について（通知 4）

注意すべき薬剤として記載されている薬剤

薬歴に従った調剤が必要とされている内服薬（通知 1）（通知 2）（通知 4）

抗悪性腫瘍剤

糖尿病用薬

ジギタリス製剤

ワーファリン

（該当する主な製品の一覧は別表参照）

用量にチェックに関し、より厳格に疑義照会を行う必要のある注射薬（通知 2）

タキソールとタキソテール

病棟・外来からは撤去すべき薬剤（通知 2）（通知 4）

10%キシロカイン製剤

誤処方による事故、ヒヤリハット報告があった医薬品名の組み合わせ（通知 3）

- ・ アマリール、アルマール
- ・ サクシン、サクシゾン
- ・ タキソール、タキソテール
- ・ ノルバスク、ノルバデックス
- ・ オーダリングシステム等を採用している医療機関において先頭 3 文字が同一の医薬品

名称類似によると思われる調剤エラーや誤投薬のヒヤリハット報告が複数あったもの（通知3）

- ・ アロテック、アレロック
- ・ ウテメリン、メテナリン
- ・ テオドール、テグレートール
- ・ プレドニン、プルゼニド

投与量のチェックを厳しく行うべきもの（通知3）

- ・ タキソール
- ・ タキソテール
- ・ インスリン製剤
- ・ 小児におけるアミノフィリン

投与方法についての注意喚起（他の医薬品との供給方法の差別化）を行うべきもの（通知3）

- ・ カリウム製剤
- ・ リドカイン製剤（特にキシロカイン10%）

注：該当する主な製品の一覧（別表）は通知にはありません。今回作成しました。

一般名	主な製品名(複数規格あるものは1つのみ例示)	規格単位	会社名	薬価
シクロホスファミド	エンドキサンプ錠	50mg1錠	塩野義	44.2
メルカプトプリン	ロイケリン散	10%1g	大原	96.3
メトトレキサート	メトトレキサート錠2.5mg	2.5mg1錠	ワイズ=武田	48.6
カベシタピン	ゼローダ錠300	300mg1錠	中外	388.3
テガフル	フトラフルE錠	200mg1錠	大鷲薬品	229.6
ドキシフルリジン	フルツロンカプセル100	100mg1カプセル	中外	233
フルオロウラシル	5-FU錠50協和	50mg1錠	協和発酵	246.1
シタラピンオクホスファート	スタラシドカプセル50	50mg1カプセル	日本化薬	519.9
ヒドロキシカルバミド	ハイドレアカプセル500mg	500mg1カプセル	プリストル=プリストル・マイヤーズ	387.2
テガフル・ウラシル	ユーエフティ	1カプセル	大鷲薬品	326.4
テガフル・ギメラシル・オテラシル配合剤	ティーエスワンカプセル20	20mg1カプセル(テガフル相当量)	大鷲薬品	740.6
エトボシド	ラステットS25	25mg1カプセル	日本化薬	1,048.10
アセグラトン	グルカロン錠	187.5mg1錠	中外	24
アナストロゾール	アリミデックス錠	1mg1錠	アストラゼネカ	639.1
エキセメスタン	アロマジン錠25mg	25mg1錠	ファイザー	643.7
塩酸フアドロゾール水和物	アフエマ錠1mg	1mg1錠	ノバルティス	314
塩酸プロカルバジン	塩酸プロカルバジンカプセル	50mg1カプセル	中外	443.3
クエン酸タモキシフェン	ノルバデックスD	20mg1錠	アストラゼネカ	448.4
ゲフィチニブ	イレッサ錠250	250mg1錠	アストラゼネカ	7,074.20
ソブゾキサソ	ベラゾリン細粒	400mg1包	全薬	2,562.20
トレチニン	ベサノイドカプセル	100mg1カプセル	中外	835
ピカルタミド	カンデックス錠	80mg1錠	アストラゼネカ	1,338.20
フルタミド	オダイン錠	125mg1錠	日本化薬	414.4
メシル酸イマチニブ	グリベックカプセル100mg	100mg1カプセル	ノバルティス	3,348.00
ウベニメクス	ベスタテン30カプセル	30mg1カプセル	日本化薬	1,798.40
かわらだけ多糖体製剤	クレステン	1g	呉羽・三共	602.5
アセトヘキサミド	ジメリン錠250mg	250mg1錠	塩野義	20.5
グリクラジド	グリミクロン錠40mg	40mg1錠	大日本	32.1
グリクロピラミド	デアミンS錠	250mg1錠	杏林	30.6
グリベンクラミド	オイグルコン錠1.25mg	1.25mg1錠	中外	9.9
グリメピリド	アマリール1mg錠	1mg1錠	アベンティス	24.8
クロルプロパミド	アベマイド錠	250mg1錠	小林化工	9.7
トルブタミド	ヘキストラスチノン錠	500mg1錠	アベンティス	15.4
塩酸メホルミン	メルピン錠	250mg1錠	住友製薬	10.3
アカルボース	グルコバイ錠100mg	100mg1錠	バイエル	57.7
塩酸ピオグリタゾン	アクトス錠15	15mg1錠	武田	108.3
グリブゾール	グルデアーゼ錠	250mg1錠	協和発酵	22.6
ナテグリニド	スターシス錠30mg	30mg1錠	アステラス	24.3
ボグリボース	ベイスン錠0.2	0.2mg1錠	武田	57.6
ミチグリドカルシウム水和物	グルファスト錠10mg	10mg1錠	キッセイ=武田	60.5
ワルファリンカリウム	ワーファリン錠1mg	1mg1錠	エーザイ	9.7
ジギトキシン	ジギトキシン錠0.1mg	0.1mg1錠	塩野義	9.7
ジゴキシン	ジゴシン錠0.125mg	0.125mg1錠	中外	9.7
メチルジゴキシン	ラニラビッド錠0.1mg	0.1mg1錠	中外	12.3
ラナトシドC	ジギラノゲンC錠	0.25mg1錠	アステラス	9.7

アルキル化剤(内服)

一般名	製品名	規格単位	会社名(製造承認取得会社=販売会社=販売会社薬価)	
シクロホスファミド	エンドキサン錠	50mg1錠	塩野齋	44.2
カルボコン	エスキノン錠0.25	0.25mg1錠	三共	247.9
ブスルファン	マブリン散	1%1g	大原	144
メルファラン	アルケラン錠	2mg1錠	GSK	237.6
リン酸エストラムステチナトリウム	エストラサイトカプセル	156.7mg1カプセル	日本新薬	508.3
リン酸エストラムステチナトリウム	ピアセチルカプセル	156.7mg1カプセル	大正薬品=日本化薬	276.2
リン酸エストラムステチナトリウム	プロエスタカプセル	156.7mg1カプセル	長生堂=ケミファ	276.2

代謝拮抗剤(内服)

一般名	製品名	規格単位	会社名(製造承認取得会社=販売会社=販売会社薬価)	
メルカプトプリン	ロイケリン散	10%1g	大原	96.3
メトレキサート	メトレキセート錠2.5mg	2.5mg1錠	ワイズ=武田	48.6
カベシタピン	ゼロダ錠300	300mg1錠	中外	388.3
カルモフル	ミフロール細粒	20%1g	日本シエーリング	501.3
カルモフル	ミフロール錠	100mg1錠	日本シエーリング	261.9
テガフル	ステロジン顆粒	50%1g	寿	203
テガフル	フラフルE顆粒	50%1g	大鵬薬品	547.7
テガフル	フロトランE錠	200mg1錠	大洋	47
テガフル	フラフルE錠	200mg1錠	大鵬薬品	229.6
テガフル	ステロジン(カプセル)	200mg1カプセル	寿	31.5
テガフル	イカルス	200mg1カプセル	イセイ	43.7
テガフル	サンフルールカプセル	200mg1カプセル	旭化成ファーマ	43.7
テガフル	テフシール-G	200mg1カプセル	東和薬品	43.7
テガフル	ルナシンカプセル	200mg1カプセル	沢井	43.7
テガフル	サンフルールS	200mg1カプセル	旭化成ファーマ	163.7
テガフル	フラフルカプセル	200mg1カプセル	大鵬薬品	196.8
テガフル	フラフルEカプセル	200mg1カプセル	大鵬薬品	229.6
テガフル	フラフル細粒-20	20%1g	大鵬薬品	183.8
ドキシフルリジン	フルツロンカプセル200	200mg1カプセル	中外	372.6
ドキシフルリジン	フルツロンカプセル100	100mg1カプセル	中外	233
フルオロウラシル	ベント錠50	50mg1錠	旭化成ファーマ	91.9
フルオロウラシル	ルナボン錠50	50mg1錠	沢井	91.9
フルオロウラシル	5-FU錠50協和	50mg1錠	協和発酵	246.1
フルオロウラシル	ルナコルDS	50mg1錠	沢井	41.4
フルオロウラシル	カルゾナルドライシロップ	50mg1g	東菱	44.9
フルオロウラシル	5-FUドライシロップ協和	50mg1g	協和発酵	218.4
フルオロウラシル	ベント錠100	100mg1錠	旭化成ファーマ	158.7
フルオロウラシル	ルナボン錠100	100mg1錠	沢井	158.7
フルオロウラシル	5-FU錠100協和	100mg1錠	協和発酵	449.7
シタラビン・オクホスファート	スタラビドカプセル50	50mg1カプセル	日本化薬	519.9
シタラビン・オクホスファート	スタラビドカプセル100	100mg1カプセル	日本化薬	915.2
ヒドロキシカルバミド	ハイドリアカプセル500mg	500mg1カプセル	プリストル=プリストル・マイヤーズ	387.2
テガフル・ウラシル	ユーエフティE顆粒	1g	大鵬薬品	824.9
テガフル・ウラシル	ユーエフティ	1カプセル	大鵬薬品	326.4
テガフル・ギメラシル・オテラシル配合剤	ティーエスワンカプセル20	20mg1カプセル(テガフル相当量)	大鵬薬品	740.6
テガフル・ギメラシル・オテラシル配合剤	ティーエスワンカプセル25	25mg1カプセル(テガフル相当量)	大鵬薬品	891.2

抗腫瘍性植物成分製剤(内服)

一般名	製品名	規格単位	会社名(製造承認取得会社=販売会社=販売会社薬価)	
エトボシド	ベプシドS25	25mg1カプセル	プリストル=プリストル・マイヤーズ	1,048.10
エトボシド	ラストテットS25	25mg1カプセル	日本化薬	1,048.10
エトボシド	ベプシドS50	50mg1カプセル	プリストル=プリストル・マイヤーズ	1,968.90
エトボシド	ラストテットS50	50mg1カプセル	日本化薬	2,041.00

その他の腫瘍剤(内服)

一般名	製品名	規格単位	会社名(製造承認取得会社=販売会社=販売会社薬価)	
アセグラトン	グルカロン錠	187.5mg1錠	中外	24
アナストロゾール	アリミデックス錠	1mg1錠	アストラゼネカ	639.1
エキセメスタン	アロマン錠25mg	25mg1錠	ファイザー	643.7
塩酸フアドロゾール水和物	アフェマ錠1mg	1mg1錠	ノバルティス	314
塩酸プロカルバジン	塩酸プロカルバジンカプセル	50mg1カプセル	中外	443.3
塩酸プロカルバジン	ナツラン	50mg1カプセル	中外	443.3
クエン酸タモキシフェン	ノルパデックス	10mg1錠	アストラゼネカ	233.7
クエン酸タモキシフェン	タスオミン錠	10mg1錠	日本シエーリング	140.7
クエン酸タモキシフェン	ノルキシフェン錠	10mg1錠	寿	97.6
クエン酸タモキシフェン	フェノルン錠	10mg1錠	メディサ・明治製菓	97.6
クエン酸タモキシフェン	アドバン錠	10mg1錠	沢井	64.5
クエン酸タモキシフェン	ソシゲン錠	10mg1錠	辰巳・ケミファ・メルクホエイ	64.5
クエン酸タモキシフェン	パンリーフ錠	10mg1錠	東菱・扶桑	64.5
クエン酸タモキシフェン	レスポール錠	10mg1錠	わかもと	64.5
クエン酸タモキシフェン	エマルック錠	10mg1錠	大正薬品・日医工	43.4
クエン酸タモキシフェン	ノルパデックスD	20mg1錠	アストラゼネカ	448.4
クエン酸タモキシフェン	タスオミンD錠	20mg1錠	日本シエーリング	283.5
クエン酸トレミフェン	フェアストーン錠40	40mg1錠	日本化薬	551.6
クエン酸トレミフェン	フェアストーン錠60	60mg1錠	日本化薬	820.8
ゲフィチニブ	イレツサ錠250	250mg1錠	アストラゼネカ	7,074.20
ソゾキサン	ベラゾリン細粒	400mg1包	全薬	2,562.20
ソゾキサン	ベラゾリン細粒	800mg1包	全薬	4,709.30
タミバロテン	アムレイク錠2mg	2mg1錠	東光=日本新薬	4,026.30
トレチノイン	ベサノイドカプセル	10mg1カプセル	中外	835
ピカルタミド	カソデックス錠	80mg1錠	アストラゼネカ	1,338.20
フルタミド	オダイン錠	125mg1錠	日本化薬	414.4
フルタミド	フルタミド錠125「KN」	125mg1錠	小林化工・ヤクルト	297.1
フルタミド	フルタメルク錠125	125mg1錠	メルクホエイ	297.1
メシル酸イマチニブ	グリベック錠100mg	100mg1錠	ノバルティス	3,348.00
メシル酸イマチニブ	グリベックカプセル100mg	100mg1カプセル	ノバルティス	3,348.00
ウベニメクス	ベスタチン10カプセル	10mg1カプセル	日本化薬	710.1
ウベニメクス	ベスタチン30カプセル	30mg1カプセル	日本化薬	1,798.40
かわらたけ多糖体製剤	クレスチン	1g	呉羽・三共	602.5
かわらたけ多糖体製剤	カルボクリン末	1g	大洋・ケミファ	374.2
かわらたけ多糖体製剤	エーノール末	1g	東菱・扶桑	267.8
かわらたけ多糖体製剤	キルスパン末	1g	シオノ	230.6
かわらたけ多糖体製剤	クレチール末	1g	沢井	230.6
かわらたけ多糖体製剤	チオレスチン散	1g	長生堂	267.8
かわらたけ多糖体製剤	アスクレ	1g	日医工	230.6

アルキル化剤(注射)

一般名	製品名	規格単位	会社名(製造承認取得会社=販売会社=販売会社 薬価)
イホスファミド	注射用イホファミド1g	1g1瓶	塩野義 4,355.00
シクロホスファミド	注射用エンドキサン100mg	100mg1瓶	塩野義 247
シクロホスファミド	注射用エンドキサン500mg	500mg1瓶	塩野義 991
カルボコン	注射用エスキノ	1mg1瓶(溶解液付)	三共エール=三共 1,762.00
チオデバ	チスバミン注射液(注射用蒸留水付)	5mg1管(溶解液付)	住友製薬 220
塩酸ニムスチン	ニドラン注射用25mg	25mg1瓶	三共 5,400.00
塩酸ニムスチン	ニドラン注射用50mg	50mg1瓶	三共 9,729.00
ダカルバジン	ダカルバジン注協和	100mg1瓶	協和発酵 5,030.00
メルファラン	アルケラン静注用50mg	50mg1瓶(溶解液付)	GSK 10,380.00
ラニムスチン	注射用サイメリン50mg	50mg1瓶	三菱ウェルファーマ 15,214.00
ラニムスチン	注射用サイメリン100mg	100mg1瓶	三菱ウェルファーマ 29,887.00

代謝拮抗剤(注射)

一般名	製品名	規格単位	会社名(製造承認取得会社=販売会社=販売会社 薬価)
メトトレキサート	メトトレキサート注射液200mg	200mg8mL1瓶	ワイス・武田 12,579.00
メトトレキサート	注射用メトトレキサート5mg	5mg1瓶	ワイス・武田 1,011.00
メトトレキサート	注射用メトトレキサート50mg	50mg1瓶	ワイス・武田 3,536.00
テガフル	フトラフル注	4%10mL1管	大鷲薬品 689
テガフル	アチロン注	4%10mL1管	同仁 284
テガフル	イカス注	4%10mL1管	イセイ 284
テガフル	注射用フトラフル400	400mg1瓶	大鷲薬品 689
フルオロウラシル	5-FU注250協和	250mg1管	協和発酵 461
エノシタピン	注射用サンラビン	150mg1瓶	旭化成ファーマ 4,072.00
エノシタピン	注射用サンラビン	200mg1瓶	旭化成ファーマ 5,369.00
エノシタピン	注射用サンラビン	250mg1瓶	旭化成ファーマ 6,671.00
塩酸ゲムシタピン	ジェムザール注射用200mg	200mg1瓶	リリー 5,941.00
塩酸ゲムシタピン	ジェムザール注射用1g	1g1瓶	リリー 27,825.00
シタラビン	キロサイド注	20mg1管	日本新薬 531
シタラビン	キロサイド注	40mg1管	日本新薬 988
シタラビン	キロサイド注	60mg1管	日本新薬 1,473.00
シタラビン	キロサイド注	100mg1管	日本新薬 2,463.00
シタラビン	キロサイド注	200mg1管	日本新薬 3,992.00
シタラビン	キロサイドN注	400mg1管	日本新薬 6,791.00
リン酸フルダラビン	フルダラ	50mg1瓶	日本シエーリング 38,735.00
リン酸フルダラビン	フルダラ静注用50mg	50mg1瓶	日本シエーリング 38,735.00

抗腫瘍性抗生物質製剤(注射)

一般名	製品名	規格単位	会社名(製造承認取得会社=販売会社=販売会社 薬価)
マイトマイシンC	マイトマイシン注用2mg	2mg1瓶	協和発酵 539
マイトマイシンC	マイトマイシン注用10mg	10mg1瓶	協和発酵 2,542.00
アクチノマイシンD	コスメゲン	0.5mg1瓶	万有 2,208.00
塩酸ブレオマイシン	ブレオ	5mg1瓶	日本化薬 2,290.00
塩酸ブレオマイシン	ブレオ	15mg1瓶	日本化薬 6,591.00
塩酸ブレオマイシン	ブレオ	30mg1瓶	日本化薬 12,319.00
硫酸ペプロマイシン	ペブレオ注5mg	5mg1瓶	日本化薬 4,763.00
硫酸ペプロマイシン	ペブレオ注10mg	10mg1瓶	日本化薬 8,893.00
塩酸アクリルピジン	アクラシノン注射用	20mg1瓶	メルシヤン=アステラス 4,363.00
塩酸アムルピジン	カルセド注射用20mg	20mg1瓶	住友製薬 8,511.00
塩酸アムルピジン	カルセド注射用50mg	50mg1瓶	住友製薬 19,123.00
塩酸イダルピジン	イダマイシン注	5mg1瓶	ファイザー 15,939.00
塩酸エビルピジン	ファルモルピジンRTU注射液	10mg5mL1瓶	ファイザー=協和発酵 7,307.00
塩酸エビルピジン	ファルモルピジンRTU注射液	50mg25mL1瓶	ファイザー 32,903.00
塩酸エビルピジン	ファルモルピジン注	10mg1瓶	ファイザー 7,307.00
塩酸エビルピジン	塩酸エビルピジン注10mg「メルク」	10mg1瓶	メルクホエイ 5,115.00
塩酸エビルピジン	ファルモルピジン注	50mg1瓶	ファイザー 32,903.00
塩酸エビルピジン	塩酸エビルピジン注50mg「メルク」	50mg1瓶	メルクホエイ 23,033.00
塩酸ダウナルピジン	ダウナルピジン注	20mg1瓶	明治製菓 2,029.00
塩酸ドキシソルピジン	アドリアシン注	10mg1瓶	協和発酵 2,722.00
塩酸ピラルピジン	ピノルピジン注	10mg1瓶	メルシヤン=日本化薬 8,222.00
塩酸ピラルピジン	注射用テラルピジン	10mg1瓶	明治製菓 8,222.00
塩酸ピラルピジン	注射用テラルピジン	20mg1瓶	明治製菓 15,719.00
塩酸ピラルピジン	ピノルピジン注	20mg1瓶	メルシヤン=日本化薬 15,719.00
ジノスタチンステチラマー	スマンクス肝動注用4mg	4mg1瓶	アステラス 56,199.00
ジノスタチンステチラマー	スマンクス肝動注用6mg	6mg1瓶	アステラス 80,351.00

抗腫瘍性植物成分製剤(注射)

一般名	製品名	規格単位	会社名(製造承認取得会社=販売会社=販売会社 薬価)
エトポシド	ベプシド注	100mg5mL1瓶	ブリストル=ブリストル・マイヤーズ 8,000.00
エトポシド	ラストット注	100mg5mL1瓶	日本化薬 8,000.00
塩酸イリノテカン	カンプト注	40mg2mL1瓶	ヤクルト 8,928.00
塩酸イリノテカン	トポテン注	40mg2mL1瓶	第一製薬 8,928.00
塩酸イリノテカン	カンプト注	100mg5mL1瓶	ヤクルト 20,050.00
塩酸イリノテカン	トポテン注	100mg5mL1瓶	第一製薬 20,050.00
塩酸ノギテカン	ハイカムチン注射用	1.1mg1瓶	日本化薬 10,585.00
酒石酸ピルレルピジン	ナベルピジン注10	10mg1mL1瓶	協和発酵 7,770.00
酒石酸ピルレルピジン	ナベルピジン注40	40mg4mL1瓶	協和発酵 27,772.00
ドセタキセル水和物	タキソテール注	20mg0.5mL1瓶(溶解液付)	アベンティス 21,782.00
ドセタキセル水和物	タキソテール注	80mg2mL1瓶(溶解液付)	アベンティス 74,930.00
バクリタキセル	タキソール注	30mg3mL1瓶	ブリストル=ブリストル・マイヤーズ 15,643.00
バクリタキセル	タキソール注	100mg16.7mL1瓶	ブリストル=ブリストル・マイヤーズ 46,052.00
硫酸ピンクリスチン	オンコピン注射用1mg	1mg1瓶	日本化薬 3,776.00
硫酸ピンデシン	注射用フィルデシン1mg	1mg1瓶	塩野義 5,556.00
硫酸ピンデシン	注射用フィルデシン3mg	3mg1瓶	塩野義 15,383.00
硫酸ピンプラスチン	エクザール注射用10mg	10mg1瓶	日本化薬 3,721.00

その他の腫瘍用剤(注射)

一般名	製品名	規格単位	会社名(製造承認取得会社=販売会社=販売会社 薬価)
L-アスパラギナーゼ	ロイナーゼ注	5,000K単位1瓶	協和発酵 2,869.00
L-アスパラギナーゼ	ロイナーゼ注	10,000K単位1瓶	協和発酵 5,507.00
塩酸ミトキサントロン	ノントロン注10mg	10mg5mL1瓶	ワイス=武田 26,524.00
塩酸ミトキサントロン	ノントロン注20mg	20mg10mL1瓶	ワイス=武田 48,740.00
オキサリプラチン	エルプラット注射用100mg	100mg1瓶	ヤクルト 74,087.00
カルボプラチン	パラプラチン注射液	50mg5mL1瓶	ブリストル=ブリストル・マイヤーズ 7,335.00
カルボプラチン	カルボプラチン注射液1%「ヘキサール」	50mg5mL1瓶	ヘキサール 6,721.00
カルボプラチン	カルボメルク注射液1%	50mg5mL1瓶	メルクホエイ 6,721.00
カルボプラチン	パラプラチン注射液	150mg15mL1瓶	ブリストル=ブリストル・マイヤーズ 20,907.00

カルボプラチン	カルボプラチン注射液1%「ヘキサル」	150mg15mL1瓶	ヘキサル	16,378.00
カルボプラチン	カルボメルク注射液1%	150mg15mL1瓶	メルクホエイ=日本化薬	16,378.00
カルボプラチン	パラプラチン注射液	450mg45mL1瓶	プリストル=プリストル・マイヤーズ	53,867.00
カルボプラチン	カルボプラチン注射液1%「ヘキサル」	450mg45mL1瓶	ヘキサル	39,909.00
カルボプラチン	カルボメルク注射液1%	450mg45mL1瓶	メルクホエイ=日本化薬	39,909.00
カルボプラチン	注射用パラプラチン150mg	150mg1瓶	プリストル=プリストル・マイヤーズ	20,907.00
クラドリピン	ロイスタチン注8mg	8mg8mL1瓶	ヤンセン	91,613.00
三酸化ヒ素	トリセノックス注10mg	10mg1管	日本新薬	35,230.00
シスプラチン	プリプラチン注	10mg20mL1瓶	プリストル=プリストル・マイヤーズ	3,957.00
シスプラチン	ランダ注	10mg20mL1瓶	日本化薬	3,957.00
シスプラチン	プラトシン注10	10mg20mL1瓶	ファイザー=協和発酵	3,344.00
シスプラチン	シスプラチン注「マルコ」	10mg20mL1瓶	マルコ=ヤクルト	1,939.00
シスプラチン	シスプラメルク注射液0.05%	10mg20mL1瓶	メルクホエイ	1,939.00
シスプラチン	プリプラチン注	25mg50mL1瓶	プリストル=プリストル・マイヤーズ	9,666.00
シスプラチン	ランダ注	25mg50mL1瓶	日本化薬	9,666.00
シスプラチン	プラトシン注25	25mg50mL1瓶	ファイザー=協和発酵	7,548.00
シスプラチン	シスプラチン注「マルコ」	25mg50mL1瓶	マルコ=ヤクルト	5,174.00
シスプラチン	プリプラチン注	50mg100mL1瓶	プリストル=プリストル・マイヤーズ	17,255.00
シスプラチン	ランダ注	50mg100mL1瓶	日本化薬	17,255.00
シスプラチン	プラトシン注50	50mg100mL1瓶	ファイザー=協和発酵	14,118.00
シスプラチン	シスプラチン注「マルコ」	50mg100mL1瓶	マルコ=ヤクルト	8,316.00
シスプラチン	シスプラメルク注射液0.05%	50mg100mL1瓶	メルクホエイ	8,316.00
シスプラチン	動注用アイエーコール50mg	50mg1瓶	日本化薬	49,865.00
シスプラチン	動注用アイエーコール100mg	100mg1瓶	日本化薬	91,880.00
シスプラチン	動注用コナブリ100mg	100mg1瓶	プリストル=プリストル・マイヤーズ	91,880.00
トラスツズマブ(遺伝子組換え)	ハーセプチン注射液60	60mg1瓶(溶解液、希釈液付)	中外	31,674.00
トラスツズマブ(遺伝子組換え)	ハーセプチン注射液150	150mg1瓶(溶解液、希釈液付)	中外	78,074.00
ネダプラチン	アクブラ静注用10mg	10mg1瓶	塩野義	6,869.00
ネダプラチン	アクブラ静注用50mg	50mg1瓶	塩野義	31,839.00
ネダプラチン	アクブラ静注用100mg	100mg1瓶	塩野義	58,297.00
ベントスタチン	コホリン	7.5mg1瓶(溶解液付)	化血研=日本化薬	112,903.00
リツキシマブ(遺伝子組換え)	リツキサン注10mg/mL	100mg10mL1瓶	全薬=中外	51,698.00
リツキシマブ(遺伝子組換え)	リツキサン注10mg/mL	500mg50mL1瓶	全薬=中外	252,152.00
ソニフィラン	ソニフィラン	20mg2mL1管	科研	7,612.00
タラポルフィンナトリウム	注射用レザフィリン100mg	100mg1瓶	明治製菓	389,498.00
ボルフィマーナトリウム	フォトリン注	75mg1瓶	ワイズ=武田	194,749.00
溶連菌抽出物	ピシバニール0.2KE	0.2KE1瓶(溶解液付)	中外	845
溶連菌抽出物	ピシバニール0.5KE	0.5KE1瓶(溶解液付)	中外	1,976.00
溶連菌抽出物	ピシバニール1KE	1KE1瓶(溶解液付)	中外	3,616.00
溶連菌抽出物	ピシバニール5KE	5KE1瓶(溶解液付)	中外	8,282.00
レンチナン	レンチナン(山之内)1mg	1mg1瓶	アステラス	6,632.00
レンチナン	レンチナン(味の素)1mg	1mg1瓶	味の素=大鵬薬品	6,632.00
レンチナン	レンチナン静注用1mg「アステラス」	1mg1瓶	アステラス	6,632.00
レンチナン	レナカット注	1mg1瓶	沢井	2,319.00

糖尿病用剤

一般名	製品名	規格単位	会社名(製造承認取得会社=販売会社=販売会社 薬価)	
アセトヘキサミド	ジメリン錠250mg	250mg1錠	塩野義	20.5
アセトヘキサミド	ジメリン錠500mg	500mg1錠	塩野義	37.3
グリクラジド	グリミクロンHA錠20mg	20mg1錠	大日本	18.8
グリクラジド	クラウナート錠20mg	20mg1錠	大洋	7
グリクラジド	グリミクロン錠40mg	40mg1錠	大日本	32.1
グリクラジド	グリミラン錠	40mg1錠	小林化工=メルクホエイ	11.8
グリクラジド	グルタミール錠	40mg1錠	メディサ=沢井	11.8
グリクラジド	キョワクロン錠	40mg1錠	共和薬品	7.5
グリクラジド	クラウナート錠40mg	40mg1錠	大洋=日医工	7.5
グリクラジド	グリクラジド錠40mg「YD」	40mg1錠	陽進堂	7.5
グリクラジド	ダイアグリコ錠	40mg1錠	東和薬品	7.5
グリクラジド	ファルリンド錠	40mg1錠	ファルマー	7.5
グリクラジド	ベネラクサー錠	40mg1錠	大正薬品=三和化学	7.5
グリクラジド	ルイメニア錠	40mg1錠	日新=山形	7.5
グリクロピラミド	テアマリン錠	250mg1錠	杏林	30.6
グリベンクラミド	オイグルコン錠1.25mg	1.25mg1錠	中外	9.9
グリベンクラミド	ダオニール1.25mg	1.25mg1錠	アベンティス	9.6
グリベンクラミド	パミルコン錠1.25mg	1.25mg1錠	大正薬品=日本化薬,日医工	6.4
グリベンクラミド	ダムゼール錠1.25mg	1.25mg1錠	三和化学	6.4
グリベンクラミド	グリベンクラミド錠1.25mg「EMEC」	1.25mg1錠	サンノーバ=エルメッドエーザイ	6.4
グリベンクラミド	オイグルコン錠2.5mg	2.5mg1錠	中外	16.7
グリベンクラミド	ダオニール2.5mg	2.5mg1錠	アベンティス	16.7
グリベンクラミド	パミルコン錠2.5mg	2.5mg1錠	大正薬品=日本化薬,日医工	6.9
グリベンクラミド	プラトゲン錠	2.5mg1錠	日医工	6.4
グリベンクラミド	クラミン錠2.5	2.5mg1錠	東和薬品	6.4
グリベンクラミド	セオグルミン錠2.5mg	2.5mg1錠	長生堂	6.4
グリベンクラミド	ベンクラート錠2.5mg	2.5mg1錠	大洋	6.4
グリベンクラミド	エントレゾン錠	2.5mg1錠	小林化工	6.4
グリベンクラミド	ダムゼール錠2.5mg	2.5mg1錠	三和化学	6.4
グリベンクラミド	オベアミン錠2.5	2.5mg1錠	メディサ=沢井	6.4
グリベンクラミド	グリピナート錠	2.5mg1錠	ヘキサル	6.4
グリベンクラミド	マーグレイド錠2.5mg	2.5mg1錠	シオノ	6.4
グリメピリド	アマリール1mg錠	1mg1錠	アベンティス	24.8
グリメピリド	アマリール3mg錠	3mg1錠	アベンティス	58
クロルプロパミド	アベマイド錠	250mg1錠	小林化工	9.7
トルブタミド	ジアベン錠250mg	250mg1錠	中外	8.6
トルブタミド	ジアベン錠500mg	500mg1錠	中外	15.4
トルブタミド	ヘキストラチノン	1g	アベンティス	16.2
トルブタミド	チアベース1号	250mg1錠	日医工	8.6
トルブタミド	トルブタミド錠「タケシマ」	250mg1錠	ニプロジェネファ	8.6
トルブタミド	トルブタミド錠「トーフ」	250mg1錠	東和薬品	8.6
トルブタミド	ブタマイド錠250	250mg1錠	富山化学=大正富山	8.6
トルブタミド	ブタマイド錠500	500mg1錠	富山化学=大正富山	15.4
トルブタミド	ヘキストラチノン錠	500mg1錠	アベンティス	15.4
塩酸ブホルミン	ジベトスB錠	50mg1錠	日医工	10.9
塩酸ブホルミン	ジベトス錠(腸溶錠)	50mg1錠	寿=ゼリア	10.9
塩酸ブホルミン	塩酸ブホルミン錠「ミタ」	50mg1錠	ファルマー	6.5
塩酸メホルミン	グリコロン錠	250mg1錠	日本新薬	10.3
塩酸メホルミン	ネルビス錠250mg	250mg1錠	三和化学	10.3
塩酸メホルミン	メテツ錠250mg	250mg1錠	トーアエイヨー=アステラス	10.3
塩酸メホルミン	メトリオン錠250mg	250mg1錠	シオノ=ケミファ=大洋	10.3

塩酸トホルミン	メルピン錠	250mg1錠	住友製薬	10.3
アカルボース	グルコバイ錠50mg	50mg1錠	バイエル	32.8
アカルボース	グルコバイ錠100mg	100mg1錠	バイエル	57.7
塩酸ピオグリタゾン	アクトス錠15	15mg1錠	武田	108.3
塩酸ピオグリタゾン	アクトス錠30	30mg1錠	武田	202
グリブゾール	グルデアーゼ錠	125mg1錠	協和発酵	12.2
グリブゾール	グルデアーゼ錠	250mg1錠	協和発酵	22.6
ナテグリニド	スターシス錠30mg	30mg1錠	アステラス	24.3
ナテグリニド	ファスティック錠30	30mg1錠	味の素=三共	24.3
ナテグリニド	スターシス錠90mg	90mg1錠	アステラス	60.5
ナテグリニド	ファスティック錠90	90mg1錠	味の素=三共	60.5
ボグリボース	ベイスン錠0.2	0.2mg1錠	武田	57.6
ボグリボース	ジャミール錠0.2mg	0.2mg1錠	高田	40.3
ボグリボース	ベイグレース錠0.2mg	0.2mg1錠	メディサ=沢井=ヘキサール	40.3
ボグリボース	ベイスロース錠0.2mg	0.2mg1錠	陽進堂=小林製薬工業=富士製薬	40.3
ボグリボース	ベスタミオン錠0.2	0.2mg1錠	日新=山形=科研	40.3
ボグリボース	ベルデリール錠0.2	0.2mg1錠	長生堂	40.3
ボグリボース	ペロム錠0.2	0.2mg1錠	ファルマー	40.3
ボグリボース	ベンジックス錠0.2	0.2mg1錠	大洋	40.3
ボグリボース	ボグシール錠0.2	0.2mg1錠	日本薬工=ケミファ	40.3
ボグリボース	ボグリース錠0.2	0.2mg1錠	小林化工=明治製菓	40.3
ボグリボース	ボグリダーゼ錠0.2	0.2mg1錠	日医工	40.3
ボグリボース	ボグリボース錠0.2「タツミ」	0.2mg1錠	辰巳	40.3
ボグリボース	ボグリボース錠0.2「トーワ」	0.2mg1錠	東和薬品	40.3
ボグリボース	ボグリボース錠0.2「メルク」	0.2mg1錠	メルクホエイ	40.3
ボグリボース	ボグリボース錠0.2「SW」	0.2mg1錠	沢井	40.3
ボグリボース	ベイスンOD錠0.2	0.2mg1錠	武田	57.6
ボグリボース	ベイスン錠0.3	0.3mg1錠	武田	80.3
ボグリボース	ジャミール錠0.3mg	0.3mg1錠	高田	56.2
ボグリボース	ベイグレース錠0.3mg	0.3mg1錠	メディサ=沢井=ヘキサール	56.2
ボグリボース	ベイスロース錠0.3mg	0.3mg1錠	陽進堂=小林製薬工業=富士製薬	56.2
ボグリボース	ベスタミオン錠0.3	0.3mg1錠	日新=山形=科研	56.2
ボグリボース	ベルデリール錠0.3	0.3mg1錠	長生堂	56.2
ボグリボース	ペロム錠0.3	0.3mg1錠	ファルマー	56.2
ボグリボース	ベンジックス錠0.3	0.3mg1錠	大洋	56.2
ボグリボース	ボグシール錠0.3	0.3mg1錠	日本薬工=ケミファ	56.2
ボグリボース	ボグリース錠0.3	0.3mg1錠	小林化工=明治製菓	56.2
ボグリボース	ボグリダーゼ錠0.3	0.3mg1錠	日医工	56.2
ボグリボース	ボグリボース錠0.3「タツミ」	0.3mg1錠	辰巳	56.2
ボグリボース	ボグリボース錠0.3「トーワ」	0.3mg1錠	東和薬品	56.2
ボグリボース	ボグリボース錠0.3「メルク」	0.3mg1錠	メルクホエイ	56.2
ボグリボース	ボグリボース錠0.3「SW」	0.3mg1錠	沢井	56.2
ボグリボース	ベイスンOD錠0.3	0.3mg1錠	武田	80.3
ミチグリドカルシウム水和物	グルファスト錠5mg	5mg1錠	キッセイ=武田	34
ミチグリドカルシウム水和物	グルファスト錠10mg	10mg1錠	キッセイ=武田	60.5

血液凝固阻止剤(内服)

一般名	製品名	規格単位	会社名(製造承認取得会社=販売会社=販売会社薬価)	
ワルファリンカリウム	ワーファリン錠0.5mg	0.5mg1錠	エーザイ	9.7
ワルファリンカリウム	ワーリン錠0.5mg	0.5mg1錠	大洋	9.7
ワルファリンカリウム	ワルファリンカリウム錠0.5mg「HD」	0.5mg1錠	ニプロファーマ=三菱ウェルファーマ	9.7
ワルファリンカリウム	アレファリン錠1mg	1mg1錠	富士製薬	9.7
ワルファリンカリウム	サモファロン錠1mg	1mg1錠	CHO=長生堂	9.7
ワルファリンカリウム	ワーファリン錠1mg	1mg1錠	エーザイ	9.7
ワルファリンカリウム	ワーリン錠1mg	1mg1錠	大洋	9.7
ワルファリンカリウム	ワルファリンカリウム錠1mg「HD」	1mg1錠	ニプロファーマ=三菱ウェルファーマ	9.7
ワルファリンカリウム	ワルファリンK錠1mg	1mg1錠	日新=山形	9.7
ワルファリンカリウム	ワルファリンカリウム錠2mg「HD」	2mg1錠	ニプロファーマ=三菱ウェルファーマ	10.4
ワルファリンカリウム	ワーファリン錠5mg	5mg1錠	エーザイ	12

強心剤 ジギタリス製剤(内服)

一般名	製品名	規格単位	会社名(製造承認取得会社=販売会社=販売会社薬価)	
ジギトキシン	ジギトキシン錠「シオノギ」0.025mg	0.025mg1錠	塩野義	9.7
ジギトキシン	ジギトキシン錠「シオノギ」0.1mg	0.1mg1錠	塩野義	9.7
ジギトキシン	ジギトキシン錠「フジサワ」	0.1mg1錠	アステラス	9.7
ジゴキシン	ジゴシン散0.1%	0.1%1g	中外	13.5
ジゴキシン	ジゴキシン錠「タイヨー」0.125mg	0.125mg1錠	大洋	9.7
ジゴキシン	ジゴキシン錠0.125mg「AFP」	0.125mg1錠	アルフレッサファーマ	9.7
ジゴキシン	ジゴシン錠0.125mg	0.125mg1錠	中外	9.7
ジゴキシン	ジゴハン錠0.125mg	0.125mg1錠	ニプロファーマ	9.7
ジゴキシン	ハーフジゴキシンKY錠0.125	0.125mg1錠	京都=トーアエイヨー=アステラス	9.7
ジゴキシン	ジゴキシンKY錠0.25	0.25mg1錠	京都=トーアエイヨー=アステラス	9.7
ジゴキシン	ジゴキシンサンド	0.25mg1錠	アルフレッサファーマ	9.7
ジゴキシン	ジゴキシン錠「タイヨー」0.25mg	0.25mg1錠	大洋	9.7
ジゴキシン	ジゴキシン錠0.25mg「AFP」	0.25mg1錠	アルフレッサファーマ	9.7
ジゴキシン	ジゴキシン錠0.25mg「HD」	0.25mg1錠	ニプロファーマ	9.7
ジゴキシン	ジゴシン錠0.25mg	0.25mg1錠	中外	9.7
ジゴキシン	ジゴシンエリキシル	0.005%10mL	中北=中外	19.1
メチルジゴキシン	ラニラピッド錠0.05mg	0.05mg1錠	中外	7
メチルジゴキシン	ラニラピッド錠0.1mg	0.1mg1錠	中外	12.3
ラナトシドC	ジギラノゲンC錠	0.25mg1錠	アステラス	9.7
ラナトシドC	ラナトシド錠	0.25mg1錠	小林化工	9.7

強心剤 ジギタリス製剤(注射)

一般名	製品名	規格単位	会社名(製造承認取得会社=販売会社=販売会社薬価)	
ジゴキシン	ジゴシン注	0.025%1mL1管	小林製薬工業=中外	97
デスラノシド	ジギラノゲンC注射液	0.02%2mL1管	小林製薬工業	98
デスラノシド	デスラノシ注	0.02%2mL1管	小林化工	98

安全薬物療法研究所 (ISMP)
ISMP の要注意薬剤リスト

要注意薬剤は、誤って用いられると患者に対する顕著な害を生じるという高いリスクをはらむ薬です。

これらの薬剤に関して生じる誤りの頻度の大小にかかわらず、これらの薬剤に関する誤りは、結果として患者にとってより重大な不利益をもたらします。

私たちは、誤りのリスクを減少するためにどの薬剤が特別な安全対策が必要か判断するためにこのリストが用いられることを願っています。

このことには、これらの薬剤の取り出しを制限すること、補助的なラベル（注意書き）や自動的な警告を使用すること、指示の標準化、これらの製剤の準備と管理、そして必要時には自動的あるいは独立したダブルチェックを導入する等のような戦略を含みます。

（注：人手による独立したダブルチェックは、必ずしも最良の誤り減少策ではなく、必ずしもリストにある医薬品のすべてについて実施することが出来るものではないかもしれません。）

薬効分類に基づく

アドレナリン作動薬（エピネフリン等）	静注
アドレナリン拮抗薬（プロプラノロール等）	静注
麻酔薬（全身用）（プロポフォール等）	静注および吸入
心筋保護液	
化学療法薬	非経口的投与および経口
高張 D-グルコース（20%以上）	
透析液	腹膜および血液透析
硬膜外あるいは髄腔内投与薬剤	
グリコプロテイン IIb/IIIa 阻害薬（エピシフィバチド等）	
血糖降下剤	経口
陽変力薬（ジゴキシン、ミルリノン等）	静注
リポソーム製剤（リポソーム型アンホテリシン B 等）	
中等度鎮静剤（ミダゾラム＜ドルミカム＞等）	静注
中等度鎮静剤（抱水クロラル等）	小児に対する経口使用
麻薬およびアヘン（液剤、徐放剤、速効剤をふくむ）	静注および経口
神経筋ブロック薬（サクシニルコリン等）	
造影剤	静注
血栓溶解剤/線溶剤（テネクテプラーゼなど）	静注
TPN 製剤	
特定の薬剤	
アミオダロン	静注
コルヒチン	注射
低分子量ヘパリン	注射
高分子ヘパリン	静注
インスリン	皮下注および静注
リドカイン	静注
硫酸マグネシウム	注射
メソトレキセート（抗腫瘍の目的以外での使用）	経口
ネシリチド	
ニトロプルシドナトリウム	注射

塩化カリウム（高濃度）	注射
リン酸カリウム	注射
塩化ナトリウム（0.9%を超える濃度）	高張注射
ワルファリン	

背景

USP-ISMP 薬剤過誤報告プログラムに提出された過誤の報告と、文献中の有害な誤りに関する報告に基づき、ISMPが要注意薬として可能性のあるリスト (potential list) を作成しました。これらの薬剤が高い頻度で注意を要すると個人や組織により判断されるかを選別する目的で計画されたISMPの調査が2003年8月および9月にかけて実施され、これに350人を超える臨床にたずさわる医療従事者から回答を得ました。

さらに、妥当性と完全性を確保するために、ISMPの医療スタッフ、私たちの諮問会議の委員、そして全米の安全に関する専門家が、可能性のあるリスト (potential list) を見直すように要請されました。薬品のリストおよび薬品の分類は、すべての情報提供者の集団的検討の結果を反映しています。

○ ISMP 2005

組織内の新聞や伝達のために出典を適切に表示し資料を複製することを許諾します。書面による許諾がない、その他の複製は禁止する。他に記されない限り、報告はUSP-ISMP 薬剤過誤報告プログラム (MERP) によって受領したものです。MERPへの発生したあるいは可能性のある薬剤過誤を報告するには、WEB (www.ismp.org) または1-800-FAIL-SAF(E)へ電話してください。ISMPは頂いた情報の匿名確保をお約束し、公表物に含まれる詳細さの水準に対する報告者の希望を尊重します。

www.ismp.org
Institute for Safe Medication Practice

(ISMPの許諾を得て翻訳複製)

薬効分類に基づく	アドレナリン作動薬(エピネフリンなど)	静注	代表的な商品名
adrenergic agonists, IV (e.g., epinephrine)			エピネフリン ノルエピネフリン 塩酸インプレナリン(インプロテレンール) 塩酸ドパミン 塩酸ドブタミン 塩酸フェニレフリン 塩酸エチレフリン β 遮断薬: 塩酸プロプラノロール 塩酸ランジオロール 塩酸エスモロール α 遮断薬: メシル酸フェントラミン
adrenergic antagonists, IV (e.g., propranolol)	アドレナリン拮抗薬(プロプラノロール等)	静注	インデラル オノアクト フレビプロック
anesthetic agents, general, inhaled and IV (e.g., propofol)	麻酔薬(全身用)	静注および吸入	レギチーン 注: プロポフォール チオペンタールナトリウム チアミラールナトリウム 塩酸タタミン ペンタルピタールナトリウム 吸入: エンフルラン ハロタン イソフルラン セボフルラン 麻酔用エーテル 亜酸化窒素 配合剤 多数あり
cardioplegic solutions	心筋保護液	非経口の投与および経口	多数あり
chemotherapeutic agents, parenteral and oral	化学療法薬		多数あり
dextrose, hypertonic, 20% or greater	高張D-グルコース(20%以上)	静注および血液透析	ブドウ糖20%、30%、40%、50%、配合剤
dialysis solutions, peritoneal and hemodialysis	透析液		腹腔透析: ペリソリタ製剤 ダイアニール製剤 ペリトリック製剤 ペリセート製剤 PDSソリタ製剤 血液透析: キンダリー製剤
epidural or intrathecal medications	硬膜外あるいは髄腔内投与薬剤		局所麻酔薬: 塩酸ロビバカイン 塩酸リドカイン 塩酸プロカイン 塩酸プリバカイン 塩酸メピバカイン 塩酸テトラカイン 副腎皮質ステロイド剤: コハク酸ビドロコルチゾン コハク酸プレドニゾンナトリウム リン酸デキサメタゾンナトリウム リン酸ベタメタゾンナトリウム